

12. 沖縄（地域別調査機関：一般財団法人南西地域産業活性化センター）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連 (沖縄)	◎	一般小売店 [酒] (店長)	来客数の動き	・観光客の来店が増えている。
	◎	家電量販店 (営業担当)	来客数の動き	・台風による故障で買換えの特需が発生し、前年実績より大きく伸ばしている。
	○	商店街 (代表者)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染状況が少し落ち着いて、気持ちの分良くなっている部分もあるが、まだ景気が良いとまでは言えない。何とか早く新型コロナウイルス感染症が完全に終息しないと厳しいとみている。
	○	百貨店 (経営担当)	販売量の動き	・台風等の影響により、食料品を中心にまとめ買いが多く、販売量の増加につながっている。
	○	スーパー (販売企画)	来客数の動き	・8月初旬は台風の影響で休業日もあり厳しいスタートであったが、月後半の旧盆需要が大きくあり、今月の景気は大変良い。やはり新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行の効果が大きく出たと考えられる。来客数、客単価共に前年を上回っている。
	○	コンビニ (経営者)	来客数の動き	・人出が良くなってきて来客数が前年と比べて増加しており、売上が増加してきている。
	○	観光型ホテル (代表取締役)	来客数の動き	・宿泊については堅調に予約が入っている。前年同期と比べても増えている。ただし2019年比の80%から85%とまだである。また、今月は台風もありキャンセルが多く出ている。夕食宴会に関しては若干増えているものの鈍い動きである。新型コロナウイルス感染症関係の融資の返済も始まり経営としては厳しい状況である。
	○	旅行代理店 (マネージャー)	販売量の動き	・個人、団体旅行の予約数はかなり増えてきている。企業の国内外の出張手配も新型コロナウイルス感染症発生前と比べてもかなり回復してきている。
	○	通信会社 (営業担当)	販売量の動き	・7月までは販売数の前年比が80%前後だったが、今月は90%と回復傾向にある。来客数も同様に増えており、新型コロナウイルスの感染状況が収束し、やっと市場が活発になってきた雰囲気がある。
	□	スーパー (企画担当)	単価の動き	・月初めの台風接近の影響による営業時間短縮や終日休業で苦戦を強いられるものの、台風後の買い込み需要やギフト需要で、客単価が上がり好調に推移している。また、今年旧盆が月末にずれたこともあり、売上を押し上げる要因となっている。
	□	乗用車販売店 (経理担当)	お客様の様子	・客の新商品への購買意欲はしばらく続くとみられる。
	□	その他専門店 [陶器] (製造)	販売量の動き	・作れる陶器の数に限りがあるため自分の体感としては忙しいが、数か所の客先からは観光の客足が減っていると聞いている。
	□	その他飲食 [居酒屋] (経営者)	それ以外	・8月は3月並みに売上が上がる月ではあるが、第1週に台風直撃で予約が全部キャンセルになって、本州も台風、雨で流通が止まり、仕入れの欠品が続き、仕入価格も異常なほど値上がりし、大幅なマイナスが続いていたが、先週辺りから中国人など外国の観光客が増えてきて、平日の入客が上がり始めている。
	□	住宅販売会社 (代表取締役)	お客様の様子	・新型コロナウイルスの新規感染者数が落ち着いたと考えているが、個人住宅や投資住宅の相談件数がなかなか向上かない。
	□	住宅販売会社 (役員)	来客数の動き	・台風の影響で一時的にマンション見学者は減ったが、動態的に順調に推移している。
	▲	コンビニ (副店長)	販売量の動き	・例年だと販売量が伸びる月であるが、2度の台風襲来で思うようには伸びていない。
	▲	衣料品専門店 (経営者)	販売量の動き	・台風の影響で今月の前半は通常どおりの営業ができずに苦しんだ。台風が明けても客足はすぐには戻らず、今月は期待できない。
	▲	乗用車販売店 (営業担当)	販売量の動き	・月初めの台風襲来と長期のお盆休みにより稼働日数の減少で、新車販売実績は前年の4割減少している。
	▲	一般レストラン (代表者)	来客数の動き	・台風の影響等で集客が少ない。
×	観光型ホテル (企画担当)	販売量の動き	・ホテルの5月の販売室数が前年比98%増加とプラスなのに対して、8月の販売室数は、台風の影響もあり、前年比8%減少とマイナスに転じている。	

企業 動向 関連 (沖縄)	◎	—	—	—
	○	食料品製造業 (役員)	受注量や販売量 の動き	・夏休みも終盤となり、初旬に台風の影響があったものの、バスケットボールワールドカップもあり当県の観光関連はピークを迎えて活況となっている。
	○	会計事務所(所長)	取引先の様子	・観光業、イベント業、飲食業など人流が動き出す業界では業績回復が著しい。
	□	窯業土石業(取締役)	受注量や販売量 の動き	・原材料価格の高騰が一段落し、ある程度の価格転嫁により、生産、販売共に大きな変化はないが収益状況は若干改善している。
	□	建設業(経営者)	受注量や販売量 の動き	・契約見込み度の高い客の打合せが止まったままである。
	▲	輸送業(経営企画室)	それ以外	・原油価格の更なる高騰で商品原価が上がり、購買意欲が下がっている。小売店からの受注量も減っている。
×	—	—	—	
雇用 関連 (沖縄)	◎	—	—	—
	○	職業安定所(職員)	求人数の動き	・観光客の増加に伴い観光関連の求人数が増えている。特に一般飲食関係の求人数が大幅に増加している。また、時給も大幅に上げてくる企業が増えている。
	□	人材派遣会社(総務担当)	求職者数の動き	・求人案件は増加しているが、求職者の動きが鈍く人手不足感が否めない。
	□	学校[専門学校](就職担当)	求人数の動き	・2024年卒の求人数は減少傾向にあるが、2025年卒に向けてのインターンシップやイベントの案内が増えてきているため、状況としては変わらないとみている。
	□	学校[大学](就職支援担当)	それ以外	・続いている物価高騰による影響がある。
	▲	求人情報誌製作会社(営業)	求人数の動き	・求人数は1割程度減少している。人流が増え、観光シーズンを迎えるなか、スポット需要による求人数増加を予測していたが、接客販売やホテル関連の求人数ほぼ変わらない。飲食業界は求人数減少となった。小売、流通系や建設業は依然として求人数が多い。
×	—	—	—	